

長久手市タウンミーティング会議報告

- 1 開催日時 令和7年8月3日(日) 午前10時30分～
- 2 開催場所 南小校区共生ステーション
- 3 参加者 13名
- 4 内容 市長あいさつ(市政報告)、市民の皆さんと市長のフリートーク
- 5 主な意見(要点筆記)

(子どもの居場所託児事業の人材確保)

Q. 放課後の子どもの居場所託児事業として、市が洞地区にある蟹原集会所において、週に2回、放課後の子どもの居場所、遊び場を提供しています。「こどものいえ・カニハラ」という名称で15人のお子さんを9人のボランティアで見守っています。9人のボランティアの内6人は近隣の学生さんです。学生さんはやがて卒業してしまうので、ボランティアセンターにおいて求人募集をお願いしていますが、人材確保に苦慮しています。他の地域でも集会所等を使用した子ども教室を運営していると思いますので、調査していただき、市としての事業化や職員派遣をお願いします。

A. 市としては放課後子ども教室と放課後児童クラブを運営していますが、そこでも人手不足に苦慮しています。地域のボランティアの方で運営いただいている「こどものいえ・カニハラ」に職員を派遣することは難しいですが、蟹原集会所にボランティア活動があるということをも市民活動やボランティアをしたいという人にお声がけしたいと思います。

(ワクチンリスクの情報発信)

Q. ワクチンの副反応やリスクについて、厚生労働省が出している情報発信をお願いします。また、ワクチン接種記録を保存し、開示請求があった場合は、各種記録を提出していただきたいと思っています。

A. 長久手市ホームページでは、厚生労働省のサイトとリンクして情報発信しています。ワクチン接種記録については、いただきましたご意見を持ち帰り庁内で共有いたします。

(サイクリング活用事業)

Q. 香流川サイクリング同好会では、未就学児から高齢者まで誰でも参加でき、お金のかからない健康管理を目指し活動しています。去年は未就学児を集めて自転車教室を開催しました。今年は10月に小学4年生、5年生、6年生を対象に、交通安全教室を開催し、交通安全、自転車の利便性を啓発していきたいと思います。80歳超えの方も参加され、長久手の素晴らしいところを探しながら、走行会を行っています。ござらっせから公園西駅までの香流川沿いの河川敷などの除草や清掃活動もしています。理想としては、インバウンドの取組として、モリコロパーク来場者に、自転車に乗っていただき、ござらっせからの史跡巡りオブショナルツアーを実施した

いと考えています。環境整備やサイクリングロードのサイン標識整備等、ご理解ご協力いただけたらと思います。

- A. 日頃から清掃活動、交通安全啓発等をいただきありがとうございます。香流川の雑草については、一度状況を確認し、管理させていただきます。インバウンドの方に対する自転車ツアーもつくっていききたいと思います。来年度は古戦場記念館がオープンします。小牧長久手の戦いの古戦場のほか、歴史的な史跡もたくさんあります。それらを自転車で周遊できたらと考えますので、ご協力をお願いします。

(事業優先順位の発信、各課の連携)

- Q. タウンミーティングを開催し、市民の声を聞くことは非常に良いことだと思います。市民要望は、個々で違うと思いますので、それらの優先順位をどのようにつけているかについて、市民に発信してほしいと思います。また、各課が連携して取り組むと、もっと良いと思います。
- A. 事業の優先順位については、市民の要望の全てを反映させることは難しいですが、市の代表として、市全体を見て、公平、公正に取り組んでいきたいと思っています。市からの情報発信についても、積極的に行っていきたいと思っています。事業は縦割りになっている部分がありますが、横の連携は強化していきたいと思っています。

(スマイルポイント事業廃止の見直し)

- Q. スマイルポイント事業は、市民の声を聞いて、廃止か継続か検討してほしいです。廃止するのであれば、段階的に廃止してほしいです。廃止の場合は、子どもたちにも説明してほしいと思います。
- A. スマイルポイント事業については、市民活動を始めるきっかけとなるものがあればいいという考えのもとこの事業が導入されましたが、338事業の事業総点検において、事業の目的は達成したと判断されました。スマイルポイント制度廃止の見直しに関しての要望は他からもいただいていますので、ご意見は庁内で共有したいと思っています。

(持続可能なまちづくり)

- Q. 長久手市の環境はすごく良いと思っています。ここで生まれ育った子どもたちが長く住んでいけるようなまちにしてほしいです。
- A. 長久手は住みよさランキング上位、平均年齢も若いまちです。今後もこのまちを維持していくには、今が正念場であると捉え、持続可能なまちづくりを進めてまいります。

(地域と学校の連携)

- Q. 地域と学校が連携できるような仕組みがあるとよいと思います。市が地域と学校の仲介役になってほしいと思います。
- A. 長久手小学校で地域と学校連携である地域学校協働本部が立ち上がっています。これから、

他の学校でも進めていきます。

(地域との連携)

Q. 毎週、北小学校区地域共生ステーションにおいて、「北っこひろば」という放課後の子どもの居場所提供事業を実施しています。私たちの地区の自治会連合会には、仕事を退職され、「北っこひろば」で活動していただける方が多くいて、人材確保はできました。先程、子どもの居場所託児事業「こどものいえ・カニハラ」において人材確保の課題がありましたが、自治会連合会、まちづくり協議会等に、市から話をしていただき、人材支援をお願いできたらと思います。

A. 地域の一つの課題として、何かできることはないか検討していきます。